

◇彼女は私の過ちを許してくれようか ジョン・ダウランド(1563-1626)

ジョン・ダウランドは、エリザベス朝からジェームス朝にかけて活躍したイギリスの作曲家・リュート奏者である。美しい旋律と和声でエリザベス朝特有の感傷とユーモアを歌った歌曲は、近代独唱歌曲の先駆とみなされる。音楽家の職を得るためにイギリスとヨーロッパ大陸を行き来する彼の広範な活動ともあいまって、その作品は当時広くヨーロッパに知られた。イングランド出身のロックミュージシャンであるスティングが2006年にダウランドの作品を取り上げた「ラビリンス」を発表し、驚きの注目を浴びたことでも知られる。ダウランドは86の世俗歌曲を作曲している。

第1曲目「彼女は私の過ちを許してくれようか」は、冷たい愛する人に自分の愛を受け入れてほしいと願う歌。この曲の歌詞は、エリザベス1世の恋人として知られたエセックス伯の作だと言われている。
〈演奏時間 約2分30秒〉

◇暗闇に住まわせておくれ ジョン・ダウランド

第2曲目「暗闇に住まわせておくれ」は、深い絶望に打ちのめされたような詩に、穏やかな哀しみに満ちた旋律が付けられている。作詞不詳。
〈演奏時間 約4分30秒〉

◇無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調BWV1007より「プレリュード」

J.S.バッハ(1685-1750)

バッハの無伴奏チェロ組曲は長らく練習曲とされてきたが、スペインのチェロ演奏家パブロ・カザルス(1876-1973)によって再評価され、チェロの定番曲として定着した。第1番「プレリュード」は4分の4拍子。アラベスク的な分散和音に移り変わっていく。現代においてはさまざまに編曲され、全曲中でも最もよく知られる曲となっている。
〈演奏時間 約3分〉

◇アヴェ・マリア J.S.バッハ(1685-1750) / グノー(1818-1893)

フランスの作曲家グノーがバッハの「平均律クラヴィーア曲集」第1巻第1番の前奏曲を伴奏として、祈禱文を歌詞とするメロディーを作曲した。19世紀中頃にはポップスとしての讚美歌が流行し、1859年に作られたこの曲は社会現象になるほど流行したという。
〈演奏時間 約3分〉

◇愛の喜びは ジャン・ポール・マルティーニ(1741-1816)

フランスで活躍したドイツの作曲家マルティーニが、フランスの詩人ジャン・ピエール・クラリスの詩に曲を付けた。甘いメロディとは裏腹に、歌詞の内容は「愛の喜びは一瞬、愛の苦しみは一生」という女性に捨てられてしまった男の悲哀を歌った曲。結婚式のBGMとしては要注意。その美しいメロディーと題名に惹かれた世界中のアーティストがこの曲をカバーしており、エルヴィス・プレスリーの大ヒット曲「好きにならずにいられない」は知る人も多いだろう。

藤木さんのレパートリーであるこの曲が村上春樹原作の映画『ハナレイ・ベイ』の監督と音楽プロデューサーの目にとまり、主題歌を担当することとなった。

〈演奏時間 約4分〉

◇無伴奏パルティータ第2番 イ短調 BWV1004より シャコンヌ
J.S.バッハ(1685—1750)

組曲「無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ」の中の「パルティータ第2番」は、「アルマンド」「クーラント」「サラバンド」「ジーク」「シャコンヌ」の5曲で構成されており、終曲「シャコンヌ」は、技巧的に難しいのみならず、深い精神性をたたえた名曲として知られる。

〈演奏時間 約13分〉

◇屋根より高い大空は ヴォーン・ウィリアムズ(1872—1958)

イギリスの作曲家ヴォーン・ウィリアムズがフランスのヴェルレーヌの有名な詩に曲をつけた。

M. ディアマー訳

〈演奏時間 約2分30秒〉

◇夢やぶれて クロード＝ミシェル・シェーンベルク(1944—)

1978年、シェーンベルクは、作詞家アラン・ブーブリルと共にヴィクトル・ユーゴーの『レ・ミゼラブル』をミュージカル化した。パリのパレ・ド・スポールで1980年に上演され、1985年にはロンドンで、1987年にはブロードウェイで上演され、絶賛を浴びた。ブロードウェイ公演はトニー賞の12部門にノミネートされ、ミュージカル作品賞およびオリジナル楽曲賞を含む8部門を受賞した。ミュージカル『レ・ミゼラブル』の劇中曲。多くの歌手がカバー

〈演奏時間 約3分〉

休憩

◇シンプル・ソング～「ミサ」 レナード・バーンスタイン(1918—1990)

アメリカが生んだ最初の世界的な指揮者であり、ブロードウェイ・ミュージカルでもその名を馳せ、20世紀後半のクラシック音楽界をリードしたレナード・バーンスタイン。バーンスタインはケネディ家とも親しく、ケネディに関係がある曲を3曲残している。ワシントン・ケネディ・センターの柿落イベントとケネディ夫人のジャクリーン・ケネディ・オナシスの委嘱で1971年に作曲された「ミサ曲」がその一つである。ミサと言っても古典的なミサ曲の構成によらず、舞台上とオーケストラピットの2群に分かれ、ロックバンドやマーチングバンドを内在する大編成のオーケストラと、ラテン語と英語の歌詞による多くの独唱者を含む合唱によって演奏される劇場作品である。冒頭に登場する司祭の第一声は「シンプルに神に歌を捧げよ」。

〈演奏時間 約4分〉

◇とってもきれい レナード・バーンスタイン

〈演奏時間 約2分30秒〉

◇フローラ、赤の脅威 ジョン・カンダー（1927ー ）

作曲家ジョン・カンダーが 40 年以上に渡って作詞家フレッド・エブとコンビを組みブロードウェイに数多くの名作を残したミュージカルの第一作は、ライザ・ミネリのブロードウェイ・デビュー作でもある「フローラ、赤の脅威」(65)。以降、このコンビで、出世作であり代表作でもある「キャバレー」(66)、「ハッピー・タイム」(68)、「その男ゾルバ」(68)、「セブンティ・ガールズ・セブンティ」(71)、「シカゴ」(75)、「ジ・アクト」(77)、「ミス」(81)、「ザ・リンク」(84)、「蜘蛛女のキス」(90/92)、「ワールド・ゴーズ・ラウンド」(91)、「スティール・ピア」(97)などヒットミュージカルを連発。他にも映画「ニューヨーク・ニューヨーク」などのヒット曲、名曲を多数発表している。

〈演奏時間 約4分40秒〉

◇アディオス・ノニーノ アストル・ピアソラ（1921ー1992）

アルゼンチンの作曲家、バンドネオン奏者ピアソラは、従来のタンゴをもとにバロックやフーガといったクラシックの構造や、ニューヨークジャズのエッセンスを取り入れることで、強いビートと重厚な音楽構造の上にセンチメンタルなメロディを自由に展開させた。彼の 1960 年の代表作である。「アディオス」はスペイン語で「さよなら」、「ノニーノ」は、ピアソラの父の愛称である。ピアソラは、ニューヨークにいて父の訃報を受けた。音楽との出あいを与えてくれた父へ捧げられた曲である。

〈演奏時間 約7分30秒〉

◇燃える秋（1978） 武満徹（1930ー1996）

昭和53年に公開された五木寛之の同名小説の映画化の主題歌。ハイファイ・セットが歌っていて歌謡曲としてもかなりヒットした。

〈演奏時間 約3分〉

◇雲に向かって起つ（1963） 武満徹

雲に向かって起つ（作詞：谷川俊太郎）は、石原慎太郎の同名の小説を連続テレビドラマ化した際の主題歌として書かれた。

〈演奏時間 約3分〉

◇見えないこども（1963） 武満徹

見えないこども（作詞：谷川俊太郎）は、羽仁進監督の『彼女と彼』主題歌。岸洋子によって歌われた。

〈演奏時間 約4分〉

◇ワルツ 他人の顔（1966） 武満徹

安部公房の小説「他人の顔」を映画化した際のテーマ音楽に、ドイツ文学者でブレヒトの全戯曲の翻訳などで知られた岩淵達治がドイツ語の詞をつけ、前田美波里によって歌われた。

〈演奏時間 約5分10秒〉

◇アヴェ・マリア シューベルト (1797-1828)

シューベルトの歌曲「エレンの歌第3番」作品52-6。数あるアヴェ・マリアの中でも、グノー（バッハ）やカッチーニのアヴェ・マリアと並び、世界三大アヴェ・マリアとされる「シューベルトのアヴェ・マリア」の歌詞は、スコットランドの詩人ウォルター・スコット（1771-1832）による長編詩「湖上の美人」の一節から採られている。物語の中で、王から追われる身となった「湖上の貴婦人」エレン・ダグラスは、聖母マリアに助けを求めて祈りの言葉を口ずさむ。そのエレンの歌が、「エレンの歌第3番」であり、「シューベルトのアヴェ・マリア」として定着することとなった。

〈演奏時間 約6分〉